



地域の自慢

西彼杵半島北部の山あいには位置する伊佐ノ浦ダムは、1980年に工事が始められ、86年にダム本体の工事が完了した。

広大な畑地を有する西海市西海町地区は恵まれた条件下にあるが、それまで灌漑用水施設は皆無に等しく、相次ぐ干ばつ被害のため不安定な農業経営が続いていた。これを解決しようと、優良農地507軒を対象に畑地灌漑を行うため、伊佐ノ浦川上流に水源施設として、総貯水量187万立方メートルの重力式コンクリートダムの建

設が県営事業として進められた。

89年には送水管が完成した農地から順次供用を開始し、94年度に事業を完了。当初から事業に携わってきた松原勝俊さん（西海町土地改良区OB）は「当時近隣自治体でのダム建設の動きが話題となる中、補償交渉の調整などで苦労したが、事業完了年の94年に発生した大干ばつの際には、ダムからの灌漑効果が最大限に発揮され、多くの人から感謝の声が寄せられ、喜びもひとしおだった」と語る。現在、ダム周辺はコテージやバングローなどとともに「伊佐ノ浦公園」として整備され、春には1500本の桜が咲き誇り、多くの来場者でにぎわっている。

西海市 伊佐ノ浦ダム 農地潤し公園もにぎわう